

西ノ前遺跡(舟形町)出土土偶

「縄文の女神」の国宝指定を祝う

公益財団法人 山形県埋蔵文化財センター
 専門調査研究員 齊藤主税



西ノ前遺跡

平成4年(1994年)に舟形町の「西ノ前遺跡」から出土した縄文時代の土偶「縄文の女神」が平成24年9月6日に国宝に指定されました。「縄文の女神」は約4500年前の縄文時代中期の土偶で高さ45cmを測り、発掘直後からその大きさとスタイルから「日本最大の土偶」「八頭身美人」「縄文のヴィーナス」などとも呼ばれて注目を集めてきました。いずれは国宝になると言われ、平成8年に県有形文化財、平成10年には国重要文化財に指定され、発掘20年目の昨年の国宝指定の快挙となりました。

国宝への指定理由は「その造形は女性の姿を究極までにデフォルメ表現していることに最大の特徴があり、現代の美的感覚に通じる美しさをもっている。縄文時代における土偶造形の到達点を示す優品として国宝にふさわしい。」と評価されました。

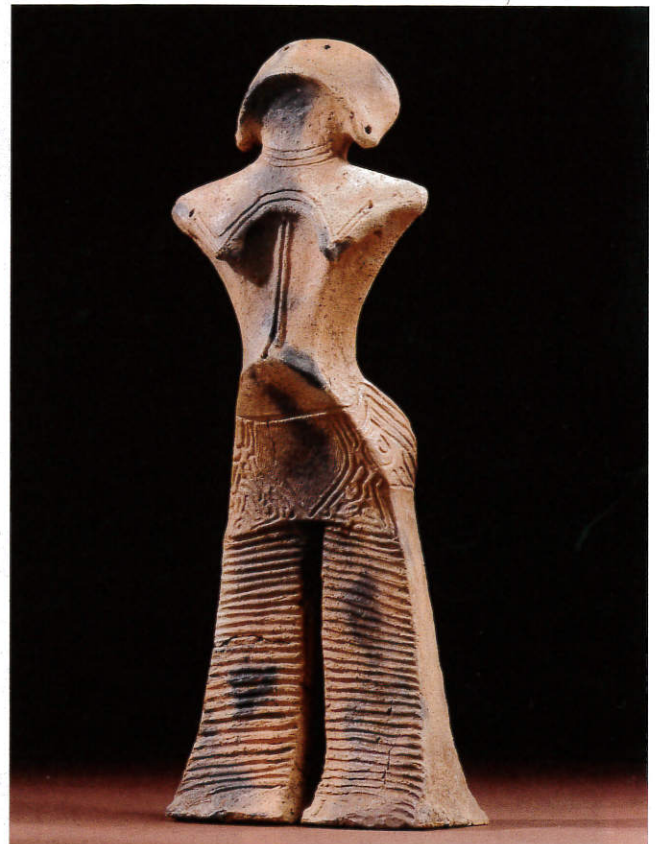
「縄文の女神」はフランス・中国・ドイツ・イギリスなど海外での展示会に日本を代表する考古遺物として展示され、国内だけでなく海外でもその造形美が絶賛され高い評価を受けています。

これまで山形県で国宝に指定されたものとしては紙本地着色洛中洛外図、羽黒山五重塔などに次ぐ6例目です。土偶としては全国で長野県、北海道、青森県出土例に次いで4例目の国宝指定です。

西ノ前遺跡は舟形町の小国川に張り出す河岸段丘上にあり、竪穴住居跡や土坑などが見つかった約4500年前の縄文時代中期の大集落跡です。この集落の中で大量の土器・石器などと伴に出土しました。土偶は5つの部位に分かれて出土し、これら全てが接合して完全形となりました。遺跡から出土する土偶のほとんどは、バラバラに出土して見つかり、完全形に接合することはめったにありません。

「縄文の女神」と類似した形や模様の土偶は西ノ前遺跡や同時代の県内各遺跡、宮城県・福島県など東北南部地域でも多数出土しています。しかし、ここまで洗練されたスタイルで完全形、しかも大型の土偶は出土しておりません。このようなことからこの土偶は複数の集落の共同祭祀のための呪具、神像として作られた可能性が考えられています。

今後とも国宝「縄文の女神」が舟形町・山形県だけでなく日本の縄文時代の精神性・造形力・美意識を代表する美術工芸品として世界に発信されて広く活用され、後世に伝えられることを願います。



縄文の女神(山形県立博物館所蔵)



裏面



左側面



右側面